

あこのころのレコードを聴こう

SOUNDCREATE LOUNGE

“博物館並み”のヴィンテージスピーカーを最新のハイエンド機器で堪能できる空間

問い合わせ / サウンドクリエイト レガート ☎03-5524-5828



ヴィンテージスピーカーが、さまざまな展示室のように並ぶ「サウンドクリエイトラウンジ」の室内。ゆったりと音楽に浸ることができる空間だ。このスペースはイベントなどにも使用されるため、案内は銀座の並木通りにある「サウンドクリエイト・レガート」(写真左上)からとなる。開設時間は月～土の12:00～19:00。日祝日は11:00～18:00。問い合わせは「レガート」に連絡。
なおヴィンテージ家具は「KAMADA」(☎03-6802-6656)の協賛

良い音楽をより良いオーディオ機器で聞きたい、そんな人におすすめのラウンジが、春、銀座・並木通り「オプン」した。サウンドクリエイトが展開する「サウンドクリエイトラウンジ」がそれだ。

サウンドクリエイトは1998(平成10年)に秋葉原で創業。一流オーディオメーカーの最新機器やヴィンテージ機器を取り扱っただけではなく、システムの構築や設置、施工からアフターフォローまですべてを行う、いわばオーディオ機器のコンシェルジュといった存在。それだけに、「いい音」に対するこだわりは半端ではない。「サウンドクリエイトラウンジ」は、どこにもあるような単なる試聴ルームとはちよつと違う。サウンドクリエイトが培ってきたノウハウが生かされた特別なスペースといつてもいいだろう。



そのもっとも大きな魅力は、イギリスのタンノイやアメリカのJBLなど1950年代から60年代にかけての、オーディオマニアなら思わずうなづいてしまうに違いない。名器と呼ばれる希少価値の高いヴィンテージスピーカーと、イギリスのリン・ヤドツのオクターブと最新の技術を搭載したレジャーやアンプを組み合わせた、ここでしか聞けない、とてでもないサウンドを楽しむという。つまり、「伝統と革新の組み合わせ」を体感できるというわけだ。

置いてあるスピーカーはどれも実際に鳴らすことができる。だからたとえば、リンのプレーヤー「LP12」とオクターブのフリーメインアンプ「V80SE」を組み合わせ、60年代のオシナルキャビネットにモニターゴールドを搭載した名品中の名品「タンノイ・オートグラフ」

でレコードを聴けば、CDでは絶対に味わうことのできないレコードならではの奥行きが深い、心地よい音が堪能できる。それを体験するだけでもここに来る価値があるというものだろう。もちろん試聴して気に入った製品があれば購入することもできる。その後のフォローもきつんとしてくれるというから安心だ。

ラウンジには世界の有名デザイナーが手がけた「ファーマー」や「エアモ」置かれており、そこに座って流れる音楽に身を委ねれば、時間が経つのも忘れてしまう。忙し現代社会にはなかなか味わえない優雅なひとときを得ることができはす。

オーディオマニアではない人も一度、足を運んでみてはどうだろうか。広くて深いオーディオの世界の一端に触れることができるはずだ。

取材時にセットしていたシステム。プレーヤーはリンLP12、アンプはオクターブV80SE。スピーカーはヴィンテージのタンノイの名品「オートグラフ」だ

